

読解過程に及ぼすヒントの効果に関する研究

佐藤 公代

(教育心理学研究室)

(平成6年9月30日受理)

問題と目的

佐藤公代(1985)は、「記憶するように読む」「評価するように読む」「書き込みながら自分の考えを入れて読む」の内容分析を行なうにあたって、読解について考えることが大事であると述べている。それを解明するために、読解力(文章理解力)を高める指導や援助する指導のあり方が、教育現場では行なわれている。北尾倫彦(1991)は、読解の心的過程要因を「認識別、逐語的理解、推論的理解」に分け、逐語的理解から推論的理解へと深い読解に導く指導法として、「挿入質問と書き込みとイメージ化」を取り上げている。ここでいう書き込みとは、①印刷文にアンダーラインなどのマークを書き込む、②印刷文の行間に語句や短い文を書き込む、③別のシートやノートに要点や気づいたことを書き込む、ということである。それらの理論的根拠として、(1)注意説：マークや言葉を書き込むことによって、注意を学習材料へ向けさせ、注意を維持することができる。(2)心的努力説：書き込みによって、より深い処理を行おうとする心的努力が引きだされる。(3)生成説：書き込む際に、言い換えや要約や追加などを行うので、書かれていること以上に生成することができる、と述べられている。

北尾によれば「ペッパーとメイヤーは、大学生にコンピューターのプログラミングに関する文章を聞かせ、ノート取りの効果を検討している。その結果、読解についても、ノート取りが常に有効な方向ではなく、学習者の能力や期待される学力の種類を考慮に入れて判断されなければならない」ことが示唆されている。

小、中学生の場合、理解力の弱い子どもの場合、提示される文章だけに注意を集中して読ませるだけの方が良い。しかし、書かれていること以上のことを読みとらせ、転移力のある学力を形成しようとするならば、ノートを自由に書き込ませる指導が有効であり、読解指導において積極的に活用されるべきである。そして、小、中学生は、国語に対して次のように考えている。つまり、

- ①教材そのものがおもしろくない。
- ②国語はいくら勉強しても、はっきりした答えが出ない。
- ③国語の学習は面倒くさい。
- ④文章を読んで意味をとらえたり、先生から七面倒くさい問いをかけられて、それでやっと中身がとらえられるというような国語の授業より、テレビなんかで作品を見た方が余程わかりやすいし、楽で楽しい。
- ⑤国語のテストはあまりいい点がとれない。

このように、わからないからおもしろみが出ない。おもしろくないからやる気がない。やる気がないところに力のつきようもない。その悪循環の連鎖が国語の授業をきらいにさせ、苦痛を生じさせているといえよう。

滝沢武久(1984)によれば、ドクロリは、「全体から部分へ」と進んでいく指導法を「まとまり的方法」(グローバルな方法)として提唱している。又、ブラウネルは、「文章に即して、それぞれの単語の論理的関係を把握するとき、正確に大意をつかむことができる」と述べている。ソーンダイクは「読みとりは問題解決の過程である」と述べている。

稲川三郎(1979)は、文章の読み取りについて、次の4点を取り上げている。つまり、①どのような言葉をどのようにとらえるか、②その語と他の語の関係をどう結び付けて、どのように文の意味をまとめるか、

③その文の意味をもとに、他の文の意味と、どのように結び付けて、次々と意味をつくりかえながら、その段落の意味をまとめるか、④その段階を基調として、次の段落の意味と結び付けて、やがて文章全体の意味一何を書き手は言おうとしているのかという要旨や主題をとらえていく、というような文字や語句や、文のきまりをもとにして文章を解明していく。その手続き、方法、そのやり方一技能を具体的に的確にわからせる必要がある。さらに、「文章を読解する場合でも、書く場合でも、そのコツがあり、わざがあり、仕方、方法がある」

本論では、①文章理解を高めるために、適切なヒントをいくつか与え、同時に書き込みという能動的な作業を行わせた際の効果について、②中学生と大学生における思考の発達の差と文章理解との関係、③国語(現代文)に対する興味や類似経験のあるなし、④国語の成績と文章理解との関係について検討する。

仮説は次の通りである。

- ①書き込みの作業を行わせるヒントを与えれば与えない場合に比べて正答数が多くなり、思考の発達のまだ完全でない中学生の方がその効果は大きいであろう。
- ②ヒントの効果は、国語の成績が良いものよりも悪いものの方がより大きいであろう。
- ③ヒントの効果は、国語(現代文)への興味があるものの方が無いものよりもより大きいであろう。
- ④ヒントを与えられたことによる意識の変化は見られるであろう。

方 法

1) 実験期間：事前テスト…1993年10月20日(中学生)、1993年10月22日～11月10日(大学生)、事後テスト…1993年10月27日(中学生)、1993年11月8日～19日(大学生)。

2) 被験者：岡山県町立Y中学校1年生70名、E大学学生98名、総計168名。

3) 実験材料：「教科書がおもしろくなる国語」(中学1年用)、「現代文、満点への公式に」(村井義應、ごま書房出版)、「例の方法」(有坂誠人著、学研出版)を参考にする。

4) 手続き：事前テストの問題を解いた後、付表1、2(No.1のアンケート)のアンケートに答えてもらい、その後、読みの作業を行なう。事後テストの問題を解いた後は付表3、4(No.2のアンケート)のアンケートに答えさせる。事前テストと事後テストの内容は別であり、事後テストに応用問題が入っている。

中学生用のヒントは次の4つである。

- ①中心語句をとらえるよう教示をする。
- ②要点をとらえるよう教示をする。
- ③文末表現に注意して読むよう教示をする。
- ④指示語、接続語に注意して読むよう教示をする。

大学生用のヒントは次の5つである。

- (1)文章中に、同語、同義語、同義文が部分的に集中する形であったら、○で囲んで線を結ぶ作業をするよう教示をする。
- (2)(1)と同様に、反意語、反意文、縁語に対しても作業をするよう教示をする。
- (3)＋のイメージと－のイメージを与える言葉に、＋か－の印をつけるよう教示をする。
- (4)文章の意味が理解しやすくなるよう、文章中の余分な言葉を取り除いて、主部、目的部、述部だけの単純な骨格にするよう教示をする。
- (5)ある状況を規定する言葉に印をつけていくよう教示をする。

今回用いた問題文は、説明、論説文であるので、事実や具体的事例をあげて、筆者の考えや意見を述べるという展開がほとんどである。したがって、文章理解のポイントとして、どこが事実、事例で、どこが意見、考え、説明であるかをつかむことである。付表6に中学生のヒントの内容を示す。質問は5問で、問1は中心語句を問う質問、問2は助詞に関する質問、問3、4は指示語に関する質問、問5は要約に関する質問から成り立っている。付表7に大学生のヒントの内容を示す。大学生の場合も質問は5問で、問題は違うが、成り立ちは同じである。中学生、大学生とも、全体を通しての感想も書かせる。

5) 得点の方法

アンケートの最初の質問項目3問は、5件法なので、○をつけた数字そのものを得点とする。他の質問項目は、No.1, 2のアンケートとも○ならば3点、?ならば2点、×ならば1点とする。

問題文の場合、正答を2点、正答以外を1点とする。

結果と考察

Fig. 1 に、中学生の事前テストと事後テストの得点の変化を示す。

Fig. 2 に、大学生の事前テストと事後テストの得点の変化を示す。

Fig. 1, 2 から、中学生、大学生とも、事前テストより事後テストの方の得点が高まってお

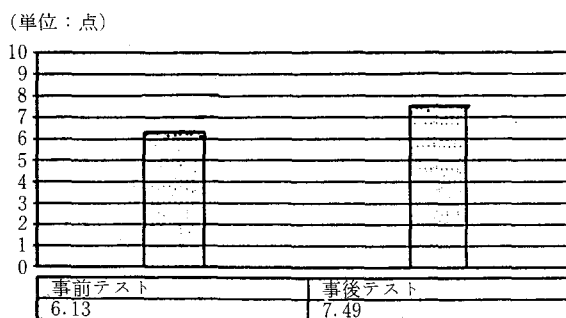


Fig. 1 中学生の事前テストと事後テストの得点の変化のグラフ

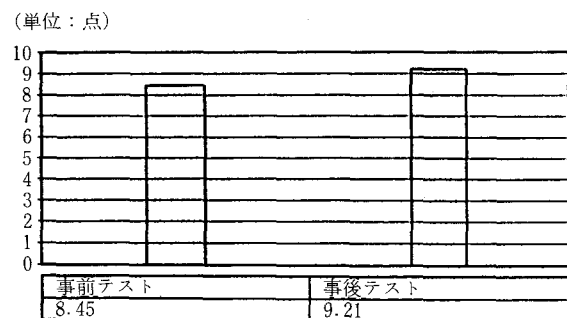


Fig. 2 大学生の事前テストと事後テストの得点の変化のグラフ

り、5%水準で有意差が認められる(中学生: $t = 6.91$, 大学生: $t = 4.47$)。

伸び率をみると、中学生は1.97、大学生は0.68で、中学生の方の伸び率が高い。ここで伸び率とは、事後テストから事前テストの点数を引いた伸び点の合計を人数でわって100をかけたものである。よって、仮説①は支持される。

国語の成績を5段階に分け、「国語の成績は悪い」を1点、「どちらかといえば悪い」を2点、「どちらでもない」を3点、「どちらかといえば良い」を4点、「国語の成績は良い」を5点とする。そして、基準点を3点として、3点より高い場合を上位群、低い場合を下位群とする。

中学生において、上位、下位群の平均は、それぞれ1.4点、1.32点で、有意差はみられないものの、わずかながら上位群の方が高い。大学生においては、上位、下位群の平均は、それぞれ0.6点、0.67点で、有意差はみられないものの、わずかの差で下位群の方の平均点が高い。有意差がみられないことから仮説②は支持されない。

国語と現代文の興味(好き、嫌い)を5段階に分け、国語、現代文は「好き」ならば5点、「どちらかといえば好き」ならば4点、「どちらでもない」ならば3点、「どちらかといえば嫌い」ならば2点、「嫌い」ならば1点とする。そして、基準点を3点として、3点より高い場合を上位群、低い場合を下位群とする。

中学生において、国語の興味への上位群、下位群の平均は、それぞれ1.41点、1.29点、現代文の興味への上位群、下位群の平均は、それぞれ1.41点、1.17点で、有意差はみられないものの、わずかながら上位群の方が高い。大学生においては、国語の興味への上位群、下位群の平均は、それぞれ0.43点、0.84点、現代文の興味への上位群、下位群の平均は、それぞれ0.56点、0.84点で、有意差はみられないものの、わずかながら下位群の方が高い。有意差がみられないことから仮説③は支持されない。

類似経験があるかないかをみるために、No.1のアンケート(中学生用:付表1, 大学生用:付表2)「③問題文のテーマは、同一語句の数を数えるだけでわかると思いますか。」「④接続語や指示語について考えながら読んでいますか。」「⑥難解語句につまったら、意味を考えるより、言い換え箇所を探しますか。」の3点から検討する。3問とも「はい」なら3点、「どちらでもない」なら2点、「いいえ」なら1点とする。そして、基準点を2点として、2点より高い場合を上位群、低い場合を下位群とする。

③において、中学生の上位群の伸び点の平均は1.22点、下位群では1.28点、大学生の上位群の伸び点の平均は0.75点、下位群では0.76点、下位群の方の平均が少しばかり高い。④において、中学生の上位群の伸び点の平均は1.68点、下位群では1.11点、上位群の方の平均点が高い。大学生の④において、上位群の伸び点の平均は0.62点、下位群では0.87点、下位群の方の平均点が高い。⑥において、中学生の上位群の平均は1.2点、下位群は1.29点、大学生の上位群の伸び点の平均は0.64点、下位群では0.77点、下位群の方の平均が少しばかり高い。

以上より、有意差はないものの、④の中学生だけ上位群の方の伸び点が高く、他はすべて下位群の方の伸び点が高いのは、類似経験のない下位群の方が、ヒントを利用することに集中して取り組んだからであろう。

変化をみるための、No.2のアンケート(中学生用:付表3, 大学生用:付表4)で「はい」なら3点、「どちらでもない」なら2点、「いいえ」なら1点とする。

Fig. 3, 4に、中学生、大学生の対応する質問項目の変化を示す。

Fig. 3, 4から、「①本をたくさん読めば解釈力はつくか」という質問では、中学生、大学

読解過程に及ぼすヒントの効果に関する研究

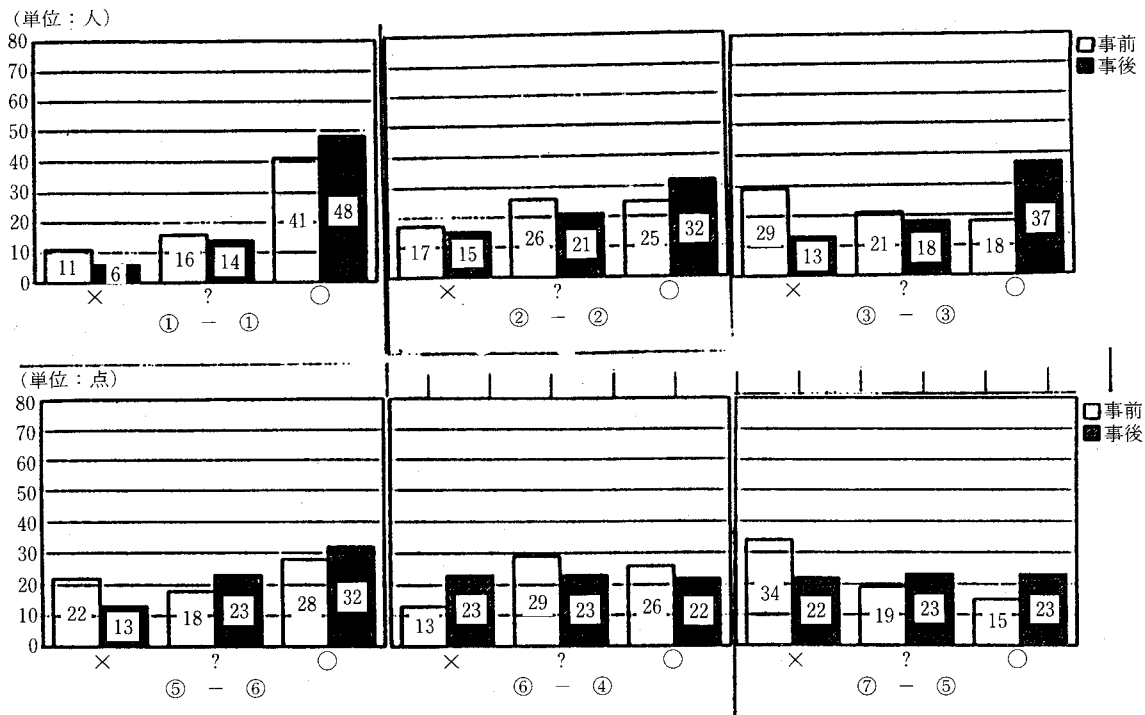


Fig. 3 中学生の対応する質問項目の変化のグラフ

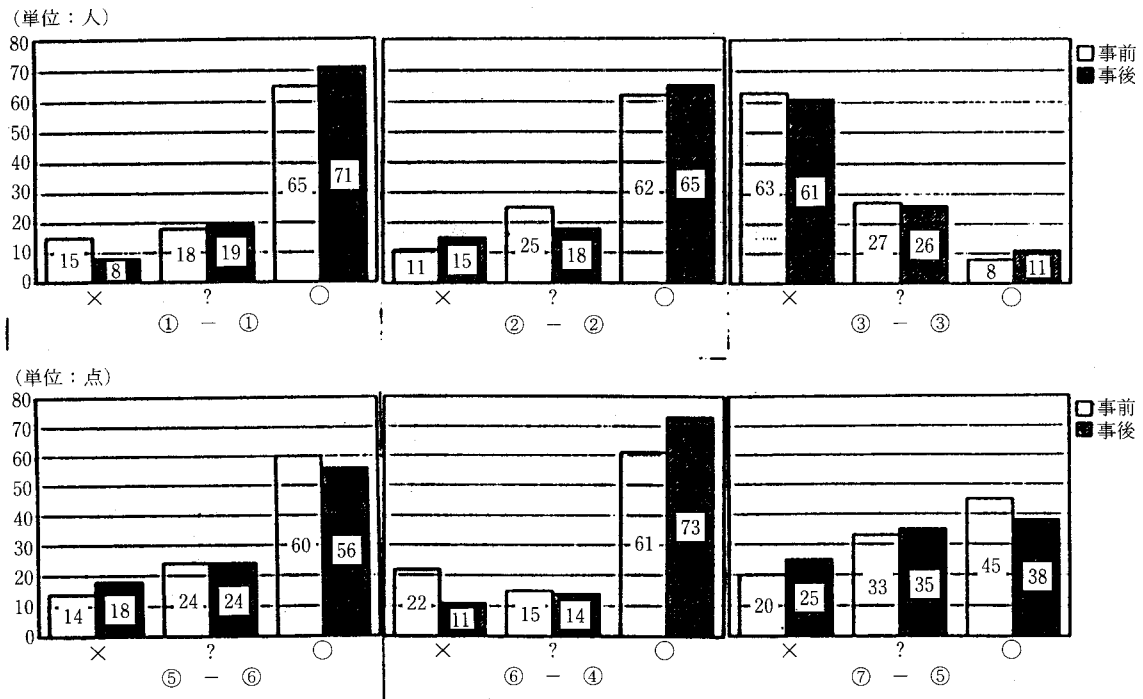


Fig. 4 大学生の対応する質問項目の変化のグラフ

生とも「はい」が多い。「②現代文には、文学的センスが必要か」という質問では、中学生では「はい」が多く、大学生では「はい」「いいえ」とも多くなっている。「③問題文のテーマは、

同一語句の数を数えるだけでわかるか」という質問では、中学生、大学生とも「はい」が増えている。「No.1の⑤, No.2の⑥筆者が文章の中で何を言いたいかについて考えながら読んでいるか」の質問では、中学生では「はい」大学生では「いいえ」が増えている。「No.1の⑦, No.2の⑧小説は日頃の生活と結びつけて考えれば, 理解しやすいか」の質問では、中学生、大学生とも「いいえ」が増えている。有意差がみられないことから仮説④は支持されない。

なお, No.2の⑦「ヒントを頭に入れておくことで文章を理解するのに役に立つと思いますか。」と⑧「今後, 文章を理解する際にヒントを活用していきたいと思いますか。」について, 中学生では⑦で66%, ⑧で63%が, 大学生では⑦で58%, ⑧で52%が「はい」と答えている。以上より, 中学生, 大学生とも半数以上がヒントについて肯定的に考えている。

付表5に, 中学生, 大学生の感想を示す。

結論として, はっきりいえることは, 次の2点である。

- ①ヒントの効果は, 中学生, 大学生にみられるが, 中学生の方の効果が大きい。
 - ②類似経験の中で, 「接続語や指示語について考えながら読んでいる」場合, 中学生ではヒントの効果がみられる。
- 平均点の高低から, 傾向としてみられるのは, 次の3点である。
- ③大学生において, 国語の成績の悪い方に, ヒントの効果があらわれる傾向である。
 - ④中学生において, 国語や現代文への興味がある者の方に, 大学生では興味のない者の方に, ヒントの効果があらわれる傾向である。
 - ⑤ヒントを利用することによって, 被験者の意識は変わってくる傾向である。

参 考 文 献

- 稲川三郎 1979 学び方国語 学陽書房
北尾倫彦 1991 学習指導の心理学 有斐閣
佐藤公代 1985 思考の発達に関する研究—大学生の随筆読解と構えとの関係について— 愛媛大学教育学部
紀要 第I部 教育科学 第31巻 27-45
滝沢武久 1984 子どもの思考のはたらき 大日本図書

付 記

実験者の清水真由美氏, 岡山県久米郡柵原町立柵原中学校の校長先生, 諸先生, 生徒達, 愛媛大学教育学部の学生達に対し, いろいろお世話になりましたことを心より深く御礼申し上げます。

付表 1 中学生におけるNo.1のアンケート

◎ 次の質問には、自分によくあてはまると思う番号を○で囲んでください。

		非常に		どちら いら えか ばと		ど ちら な いも		ど ちら いら えか ばと		非常に	
(1) 国語が好きですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き
(1) 現代文が好きですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き
(1) 国語の成績はどうですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き

◎ 次の質問には、「はい」のときは○、「いいえ」のときは×、「どちらでもない」のときは?を()の中に書き入れてください。

- ① 本をたくさん読むと、文章を理解する力がつくと思いますか。 ()
- ② 現代文を理解するためには、ひらめき(かん)が必要だと思いますか。 ()
- ③ たびたび、用いられている語句が文章のねらいだと思われませんか。 ()
- ④ 接続語(だから)や指示語(これ)について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑤ 筆者(作者)が文章の中で何を言いたいか(伝えたいか)について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑥ 難しくわからない語句につまったら、その語句の意味を考えるより、言い換えをしている所を探したらよいと思いますか。 ()
- ⑦ 小説は、日ごろの生活と結びつけて考えれば、理解しやすいと思いますか。 ()

付表 2 大学生におけるNo.1のアンケート

◎ 次の質問には、自分によくあてはまると思う番号を○で囲んでください。

		非常に		ど ちら そ か う と で い な え い ば		ど ちら な い も		ど ちら そ か う と で い あ え る ば		非常に	
(1) 国語が好きですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き
(1) 現代文が好きですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き
(1) 国語の成績はどうですか。……………	嫌い	1	…………	2	…………	3	…………	4	…………	5	好き

◎ 次の質問には、「はい」のときは○、「いいえ」のときは×、「どちらでもない」のときは?を()の中に書き入れてください。

- ① 本をたくさん読めば、解釈力がつくと思いますか。 ()
- ② 現代文には、文学的センスが必要だと思いますか。 ()
- ③ 問題文のテーマは、問一語句の数を数えるだけでわかると思いますか。 ()
- ④ 接続語や指示語について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑤ 筆者が文章の中で何を言いたいか(伝えたいか)について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑥ 難解語句につまったら、意味を考えるより、言い換え箇所を探しますか。 ()
- ⑦ 小説は、日ごろの生活と結びつけて考えれば、理解しやすいと思いますか。 ()

付表 3 中学生におけるNo.2のアンケート

◎ 次の質問において、「はい」なら○、「いいえ」なら×、「どちらでもない」なら？を（ ）の中に入れてください。

- ① 本をたくさん読むと、文章を理解する力がつくと思いますか。 ()
- ② 現代文を理解するためには、ひらめき(かん)が必要だと思いますか。 ()
- ③ たびたび用いられている語句が文章のねらいだと思われませんか。 ()
- ④ 筆者(作者)が文章の中で何を言いたいか(伝えたいか)について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑤ 難しくわからない語句につまったら、その語句の意味をかんがえるより、言い換えをしている所を探したらよいと思いますか。 ()
- ⑥ 小説は日ごろの生活と結びつけて考えれば、理解しやすいと思いますか。 ()
- ⑦ ヒントを頭に入れておくことで文章を理解するのに役に立つと思いますか。 ()
- ⑧ 今後、文章を理解するさいにヒントを活用していきたいと思いますか。 ()

◎ 感想があれば書いてください。

付表 4 大学生におけるNo.2のアンケート

◎ 次の質問には、「はい」のときは○、「いいえ」のときは×、「どちらでもない」のときは？を（ ）の中に入れてください。

- ① 本をたくさん読めば、解釈力がつくと思いますか。 ()
- ② 現代文には、文学的センスが必要だと思いますか。 ()
- ③ 問題文のテーマは、問一語句の数を数えるだけでわかると思いますか。 ()
- ④ 難解語句につまったら、意味を考えるより、言い換え箇所を探しますか。 ()
- ⑤ 小説は、日ごろの生活と結びつけて考えれば理解しやすいと思いますか。 ()
- ⑥ 筆者が文章の中で何を言いたいか(伝えたいか)について考えながら読んでいますか。 ()
- ⑦ ヒントを頭に入れておくことで、文章を理解するのに役に立つと思いますか。 ()
- ⑧ 今後、文章を理解するさいに、ヒントを活用していきたいと思いますか。 ()

◎ 感想があればお書きください。

付表 5 中学生、大学生の感想

中学生の場合

- ・難しかった。 20人(29%)
- ・本をたくさん読む方がいい。 2人(3%)
- ・ヒントがあるとややこしくなる。 1人(2%)
- ・ヒントがためになった。 1人(2%)

大学生の場合

事後テストだけの人も合わせた。そして、1人につき重複した感想もあったのでそのつど含んだ。

- ・ヒントは役に立った。(効果的、ためになる) 19人(17%)
- ・ヒントは難しい。(ややこしい、自分のやり方がある、わかりづらい) 16人(15%)
- ・必要と感じたときに使う方がよい。 1人(1%)
- ・国語的センスを大切にしたい。 1人(1%)

その他の感想として

- ・確立する前の子どもに対しての方が効果があるのではないか。
- ・迷った時に役に立つ。
- ・通常の読書では自分の感性で理解したい。
- ・国語の苦手な人は喜ばれそうだが、個々の文章を味わうという趣は育てられないと思うので、学校教育でこのヒントを基に生徒を指導するのはどうか。
- ・短時間すぎて理解しにくい。(もっと時間をかければよい) 6人(5%)
- ・普段から本を読む方がよい。 2人(2%)

付表 6 中学生用のヒント

- 文章理解におけるヒント
- A 文中でくりかえし用いられている語句は、その文章の話題に直結しているものだから、○印をつけていく。
- B 「それだけではない」「ほかにもある」という表現に注意してとらえていく。
- C ① 指示語（これ・それ・あれ・どれ）の内容について、まず直前の部分に着目。順に前にさかのぼっていくが、時として、直後にあることもあるので注意が必要。
② 必ず指示語にあてはめて確認すること。
- D 文末でわかる筆者の主張
- E 弱 ① くだ（断定）
② と思う（意見）
③ 決して～まい（意思）
④ 結局～だ（結論）
⑤ くだらう（希望）
⑥ くだらう（推量）
⑦ なぜ～か（疑問）
- 強 強い主張の表現
- 接続語の重要性
① 「かつて～」「たとえば～」と始まる部分は事実を述べている。
② 「つまり～」「したがって～」など、前の内容をまとめている接続語のあとにくる部分は、要点であったり、筆者の意見を述べている。

付表 7 大学生用のヒント

- 文章理解におけるヒント
- ① 同語 ↓ 同義語 ↓ 同義文
② 反意語 ↓ 反意文 ↓ 縁語
- 同語群
- これは、段落分け、傍線部問題（たとえば、「傍線部と同じ内容を文中より抜き出せ」的問題）などに有効です。
- 部分的に集中する同語群に○印をつける。
- × 論文の最初から最後まで出続ける同語群は意識にとどめるだけ。
※ ○で囲んで線で結ぶ。
- ◎ 言葉が現れたり、突然使われなくなったりしたら、これは段落分けのヒントになる。
- ◎ 文章全体に最初から最後まで出続けるものは、その文章のタイトル、文章全体のテーマにかかわってくる。
- ◎ 傍線部問題は、部分的に集中している箇所は要注意です。その箇所は、設問（傍線部）と密接なかわりをもってくる。
- ③ 十かー
十 ↓ 明るい、楽しい、早い、美しい、および筆者の主張に近づくこととする言葉。素朴にブライイメージを与える言葉。
一 ↓ 小さい、暗い、悲しい、汚い、遅いなど、素朴にマイナスイメージを与える言葉。完了形表現（～してしまった）。および筆者の主張から遠ざかることとする言葉。
- ☆ このことで、筆者の主張がより明確になるし、また、詩の問題の場合などでは、特に、この視点が大切になってくる。
- ④ 骨格
余分な言葉（味つけ語）を取り除いて、主部、目的部、述部だけの単純な文章にする。
例・エゴを強く自ら認め自他のエゴイズムを認め合う人間は、それを自発的に抑制し、覆う約束を作り合う。
☆ この骨格だけの関係を比較することにより、文章構造が理解しやすくなる。
そして、いったん骨格だけにしたあと、取りはらった味つけ語を少しずつ加えていってやると、容易に文章全体の意味がとれてくる。
- 規定語：ある状況を規定する言葉に印をつける。
① 形容詞ーないーなしーの活用語すべて。
・打消ーずーの活用語すべて。およびそれに準ずる語（ありません。漢字の一不ーなど）

※否定語の部分にチェック・マーク(√)の印をつける。

√A○ではない。(「3」によるとAの部分はマイナス)

A○ではなく B○である。

■否定語のそばに答え、あるいは、答えの材料がある。

② 逆接続統語

しかし、けれども、というものの、とはいっても、だが、逆に、
反対に、むしろ、他

※ [] で囲む。 √A [] しかし B



③ 順接続統語

ゆえに、よって、したがって、だから、つまり、そのため(に)、
すなわち、たとえば、いわば、ようするに、なぜならば、というの
は、いいかえれば、他

※ 逆三角形▽の印をつける。 ↓ B



④ 強調語・限定語・主張語

・強調語 [こそ ↓ ○で囲む]

・限定語 [だけ、のみ、しか、少なくとも、少ない、限られている、
以前、以後、以上、以下 ↓ ○で囲む]

・主張語 [なければならぬ、ねばならない、ざるをえない、(二重
否定は強い主張)、ほかならない、べき、当然、必要、い
うまでもない、てはならない(否定の主張) ↓ ◎の印を
つける]

⑤ 係助詞 ↓ も「」: 同じパターンの事柄を二つ以上並列する時に使う。

※ ○で囲む。

⑥ 指示語

これ、この、こういう、あれ、あの、ああいう、それ、その、具体
的な内容を代入してみる。

※ 二重傍線の印(=)をつける。

⑦ 数詞

第一に、第二に、一つ、二つ、最初に、最後に、終りに

※ ○で囲む。

■ 逆接続統語 ([]) の後ろ

・否定語(√)の後ろ [] に筆者の主張が強く表れる。

・主張語(◎)の前 []